

海洋土木

島の仕事
図鑑
大崎上島

①

海と陸、島の地形に合わせた建築土木

望月さん



島の仕事 図鑑

広島県
大崎上島

U
ターン

島では助け合う仲間がいる。もし職を失っても生きていけるのが島の好きなところ。そう語るのは建設会社に勤める望月さん。人に見てもうえる場所に、形が残るものを、自分たちの手で作れることがこの仕事のやりがい。島の地形を見ながら、桟橋を設置したり、自社クレーン船を用いた重量物の据え付けなどをを行う。測量が好きで、1ミリも狂わず合わせることが出来た瞬間が嬉しいと笑う。感謝してもらえる仕事を目指しながら、商工会青年部で地域活動にも奮闘中！

I
ターン

労支援員として福祉施設

で働く中尾さん。以前は神戸のパン屋で働いていたが、島のブルーベリーと出会い、その魅力に引き込まれる。パン屋の経験を見込まれ、新たにパン事業の立ち上げに奮闘し、販売が軌道に乗った今では障がいを持った人も、イキイキと働ける職場づくり、施設の利用者さんが就業出来るよう支援することがやりがい。島

では、親身になってくれる人が多く、島に父母がたくさん出来たようで嬉しいと笑顔で語る。

中尾さん

島の素材を活かしたパン作り

パン屋

島の仕事
図鑑
大崎上島

②

電気屋

島の仕事
図鑑
大崎上島

④



浜田さん

地域の祭りをこよなく愛する
保育士の資格を持つた町の電気屋さん



角本さん

シーカヤック、ビーチバレーが趣味
アクティブな島の理容師！

島の仕事
図鑑
大崎上島

③

家

業の理髪店を継ぐことを
決めたのは高校生の頃。

将

来の島の姿を考えたら
福祉関連の資格を持つ

ておいた方が良いと考え大阪の
大学へ進学。島外にいても祭り
のためだけに帰つてくるほど、
地域の祭りが大好きな浜田さ
ん。「櫂伝馬」という木造船の
伝統的な祭りが今も島に残る。
(櫂伝馬はP.15参照) 仕事は、
家業の電気屋を継いで、電化製
品の販売・配達、取付工事やそ
の設置などをするために島内を
駆け回る。休日の船釣りは楽し
みの一つ。人の温かさを感じる
この島を若い力で盛り上げる。
それが次なる目標だと語る。

福社関連の資格を持つ
ておいた方が良いと考え大阪の
大学へ進学。島外にいても祭り
のためだけに帰つてくるほど、
地域の祭りが大好きな浜田さ
ん。「櫂伝馬」という木造船の
伝統的な祭りが今も島に残る。
(櫂伝馬はP.15参照) 仕事は、
家業の電気屋を継いで、電化製
品の販売・配達、取付工事やそ
の設置などをするために島内を
駆け回る。休日の船釣りは楽し
みの一つ。人の温かさを感じる
この島を若い力で盛り上げる。
それが次なる目標だと語る。

人

と人が音楽で繋がつて
いく感覚がたまらなく

好き。音楽を通して仕事の魅力を語る新谷さん。広島で出会った日本唯一クラビオーラ奏者の折重由美子さんに、音楽家としてだけではなく人として魅力を感じた。この魅力をもつと伝えたくてマネージャーという仕事を選んだ。出演交渉からライブ会場の手配、ウェブサイトでの告知など、折重さんの活動を支えている。3年前から拠点を島に移す。島の好きなところである「のんびり」を満喫しながら、熱い視線を音楽に注ぐ。

大

崎上島産の牡蠣が世界

各地で食べてもらえた
う嬉しいじゃないですかと笑顔
で語る鈴木さん。自然の豊かさ
や人柄、そして養殖場に惚れ込
み、島で夢への第一歩を踏み出
す。養殖場では牡蠣と車海老を
一から育て、販売までを手掛け
る。子どもの頃から生き物が大
好きだったと話す姿からは仕事
を楽しむ気持ちが溢れていた。
将来の目標は、大人になった島
の子どもたちと一緒に働き、世
界に通用する養殖業者になるこ
とだと言う。その姿勢は意気込
みに溢れている。

養殖

島の
仕事
図鑑
—大崎上島—

⑥

島の牡蠣を世界へ。やりたいことを
追及したら、道は開ける！

鈴木さん



音楽

島の
仕事
図鑑
—大崎上島—

⑤

島を拠点に世界へ発信！
日本唯一の音楽家を支える仕事

新谷さん

3

情報通信

島の仕事
図鑑
大崎上島

⑧

「IT・通信なんでもこなす」
「信頼」を第一に考える若き起業家

大和さん



警察官

島の仕事
図鑑
大崎上島

⑦

松浦さん

島出身、島で働く警察官
警部補として島を守る

敬

察官は幼い頃からの夢。
特にきっかけという

きっかけはないが、昔からの憧
れが大きく、他になりたい職業
はなかつたとキッパリ語る松浦
さん。困った人や相談事がある
人を助け、感謝をすぐに実感で
きることがやりがい。負けは許
されない警察官だからこそ、休
日の日課は身体を鍛えること。
転勤の多いこの仕事で他の地域
にも住んでいたから感じる、島
の人の温かさ。そんな人が多い
この町の安全を、今日も力強く
も優しく見守っている。

白

らのスキルを活かして
島で役に立つには起業
するのが一番と考えた大和さ
ん。PCの販売修理や電話設置
等、ITや通信系のなんでも屋
を2013年に設立。一昔前は
都心で毎日のように職場に泊ま
りこみながら働いていたが、だ
んだんと希薄になっていく人間
関係に家族への時間も犠牲にし
ていた。島に戻ってからは、目
の前のことを楽しむという姿勢
で、仕事だけでなくこれまで島
になかったイベントに企画から
携わり、ゼロからつくる楽しさ
を実感している。

島

が好きで、島の子どもとその地域の人たちと関わりたい。だから、地元で働くことが一番と語る高橋さんは島の小学校教諭。子どもたちは日々変化し、同じ反応は一度もないからこそ、教える子どもが「できた！わかった！」の瞬間がとてもやりがいと語る。島の魅力は、自然、空気、景色、人、特に年配の方からは学ぶことが多いと言う。だからこそ、島に来たら、歩いて多くの人と触れ合いながら、その魅力を感じてもらいたいと語る。

海

の近くに住みたい。自然豊かな中で自給自足の暮らしを実践できる移住先を探し出されたのが大崎上島と語る鈴江さん。雇われる仕事は卒業し、趣味で始めた革細工から手縫いの革力バンを制作・販売。自分で仕事の量や時間を決められることに満足して仕事をしている。お金に頼らない豊かな食生活を目指し野菜作りはもちろん、自分で作れるものはできるだけ作って、自給を目指す。次の目標は電気の自給を画策中と笑顔で語る。その笑顔からは実現への力強さを感じる。

工芸

島の
仕事
図鑑
—大崎上島—

10



鈴江さん

料理の火は薪。薪拾いの散歩が日課！島に来て、おじいちゃん、おばあちゃんがいつぺんに増えたんよ。



高橋さん

島と子どもが大好きな先生
休日はサッカー選手でありジュニアチームの監督！

教育

島の
仕事
図鑑
—大崎上島—

9

整備士

島の仕事
図鑑
大崎上島

⑪

趣味

「仕事」と笑顔の藤原さん。島に帰ることを決めた時からこの道を選んだと。自動車やバイクの販売と整備が仕事。故障箇所を見ずとも予測できるのは経験から身に付いた。



藤原さん

趣味の中に仕事がある
青年部活動に熱心な自動車整備士



岩崎さん

I
ターン

U
ターン

京

都から脱サラして大崎

上島に念願の農家として一ターン。何もかも初めての手探りだけど自分の作ったものを食べて喜んでもらうことが何よりのやりがいと語る。柑橘を中心に入出庫から加工まで、ジャム作りの他、イベント出店、ネット販売など6次産業化に取り組んでいる。島の人はとても優しくやりたいことを応援してくれる人が多いことも居心地が良い理由だと言う。休日の楽しみは、

農家・6次産業

島の仕事
図鑑
大崎上島

⑫

やりたいことを実現しやすいのが島。いつか、農業を「教えられる」ようになりたい

時

間の流れが違う。そう感じたのはこの島だつた。

移住先を探して瀬戸内海の島々を訪れ、最後にこの島に来た。神戸で生まれ25才まで大阪で育ち、転職で東京へ。高校生時代の文化祭がきっかけで映像制作の仕事を選んだ。海外取材も多く、観光では行けない場所に行けることも、この仕事の魅力のひとつと安田さんは語る。宇宙番組から音楽番組までの幅広い経験を活かし、受け入れてくれたこの島のために得意の映像と様々なアイテムで奮闘する。

喫

茶・ケーキ担当の川島さん。お菓子づくりは

試行錯誤。馴染みの常連さんから「おいしかったよ」「この味を待つてた」の一聲がやりがいと語る。地元の県立高校に通い、卒業後は柔道整復師を目指し進学。資格を取得して福祉関係に就職したが、父親の体調を気遣いレスター、家業を継いだ。喫茶のカウンター越しに、持ち前の気さくな性格と笑顔で楽しい時間を提供している。みんなの憩いの場となっているこの店のおすすめはシュークリーム！

映像

東京と島を行き来する映像ディレクター橋がかっていない島を映像で綴る

島の仕事図鑑
大崎上島
安田さん

島の仕事図鑑
大崎上島

13

喫茶・洋菓子

島の仕事図鑑
大崎上島

14

柔道整復師の資格を持つ洋菓子屋さん
まずはなんでもやってみる！

川島さん

U
ターン

I
ターン



デザインホール

島の仕事図鑑
太崎上島

15



松本さん

田舎はチャンスがたくさん！世の中は簡単には変えられないが、自分の出来る範囲からやる！



中村兄弟

16

漁師

島の仕事図鑑
太崎上島

「土地柄は人柄で決まる」と島を語る漁師

U
ターン

若

手漁師を代表する中村兄弟。

仕事のやりがいを訪ねると「全部！」と声をそろえる。父親の漁師姿を見て育ち、一度は進学を機に島を出たがそれぞれJターンして、海と共に生きる仕事を満喫している。二人は大の島好き。漁を通してお客様とのライフスタイルの一部になれるこの仕事に誇りを感じ、一人ひとりとの関係を大切にしている。休日は音楽やスケートボードを友達と楽しんだり、ぼろりんと堤防で一人の時間を過ごす。それが島の良さと語る。

う、小さなことから地域の課題を解決していくことがやりがいと語る松本さん。古民家のシェアハウスを準備しながら、人と人をつなぐことが出来る場づくりに力を入れている。生まれ育った山尻地区は空き家や耕作放棄地が多く、若者が少ない。だからこそ取り組みたいことがたくさんある。大好きなこの場所をきっかけに移住・定住者が島になじんでいってくれると嬉しいと語る。今年からキウイフルーツ畑を引き継ぎ、有機栽培を始める。仕事は盛り沢山。

コ

ミニユーティを大切にしながら、小さなことから地域の

特 產品である島のしいた
けを研究、究めていき

たいと目標を語るのは、しいた
けを育てる会社で働く脇田さ
ん。きっかけは、この島にある
国立広島商船高等専門学校への
進学だった。学生として島に
関わり、この島は人が優しく、
楽しくやれると感じたことで
卒業後の就職先として選んだ。
ちょっとした温度変化で大きく
変化するしいたけを、適切に管
理して収穫という成果に繋げて
いくことが、仕事のやりがいだ
と言う。お客様から感謝の手
紙が届くことは楽しみの一つ。

高

齢者と関わることが大
好きと語る堀さんは、

小さなころから祖父母に可愛が
られ、いつか自分にできること
があると思い福祉の道へ。仕事
のやりがいは利用者の生活に関
わる支援を通じて笑顔を見るこ
とが出来ること。人生の先輩
たちはいろんなことを知つてい
て、教えてもらうことは多い。
たわいのない会話の中で笑いあ
えるのは大好きな瞬間だ。島で
はあいさつは当たり前。散歩を
する人、仕事に行く人みんなが
声をかけあえる優しい雰囲気が
心地よいと語る。



介護福祉

島の
仕事
図鑑
大崎上島

堀さん

島が好き。祖父母への恩返しを胸にUターン

農業

島の
仕事
図鑑
大崎上島

脇田さん

島で射止められた奥さんと国際結婚
アルバイトをきっかけに島で就職

宿泊業

島の仕事
図鑑
大崎上島

(20)

盆踊りで太鼓を叩かせてくれた
島の温かさに触れてUターンを決める

早本さん



経

理を務める早本さん。
島のホテルで働くと

も温かい雰囲気の持ち主。就職のきっかけは、知り合いの紹介というのがまた島らしい。はじめての経理業務は慣れないこともあつたが、書類やデータを整理していく中で、数字がキチンと合う瞬間が仕事の中でも一番気持ちが良いと語る。散歩などをしながら眺める海の景色と、静かで落ち着ける時間がお気に入り。高校時代は陶芸部。休日は趣味の小物づくりなどを楽しみながら、ゆっくりと時間を過ごす。

海運

島の仕事
図鑑
大崎上島

(19)

尼子さん



業界では、砂利、石材等の工事用資材を輸送するガット船を取り扱う量が日本一。北から南まで全国各地へ砕石や砕砂などの荷物を運んでいる。運んだ荷物はコンクリートや道路に変わり、今の日本の大地を支えている。たくさんの船舶、船員、荷物や航路の日程調整をし、自分たちで荷物を運ぶ段取りをつけてい

る。そんな仕事が、日本の産業と社会に貢献していることがやりがいだと言う。

どんな仕事や場所でも工夫次第でどうにでもなる!

創

創業50周年の海運会社で
働く尼子さん。内航海運

生語る島の仕事

活の島と、島の印象を

から移住先を探し、観光よりも生活感の溢れるところに魅力を感じてこの島へ辿り着いた。仕事は島でも珍しい「デザイナー」。形の無いものから冊子、ポスター、ウェブなど、形のあるものに変えてメッセージを伝えていくことがこの仕事の楽しさと語り、お客さんと顔の見える身近な関係を楽しんでいる。好きなことは写真や動画撮影。島の風景は飽きない魅力があり、大西港から見る夏の夕陽は隠れたオススメと教えてくれた。

橋

のかかっていない離島は都会に比べると不便なのかもしね。でもそれが気にならないくらいこの島の人は温かいと語る森岡さん。それに気づいたのは島を出てからだと言う。学生の頃から子どもが好きで、学校の職場体験で保育士を経験したことこの仕事に就くきっかけの一つ。島の好きな場所は夕陽が綺麗な長島のマリンパークおおさき。憧れだったこの仕事を、大好きな島でできる毎日。子ども達の成長を喜び、島の未来を担う子どもを笑顔で見守る。

「デザイナー

島の仕事
図鑑
大崎上島

「便利＝幸福」とは限らないから島は住みやすい島の素敵なところをみんなに伝えたい

二浦さん

保育士

島の仕事
図鑑
大崎上島

森岡さん

島が好き、海が好き、釣りが好き
でも一番好きなのは子どもの笑顔！



物流運送

島の仕事
図鑑
大崎上島

(23)

知

り合いが「お客様」ということが多く、仕事を通じて仲良くなることが島では多い。だからこそ、頼りにされた時はやりがいを感じて頑張ると語る仲野さん。島に帰つて来て気が付いたことは、ストレスが少なく、コミュニケーションが増えたこと。休日にお茶やお花を習い、自然を楽しむ時間も持てるとはとても充実している証だと言う。目標は「女性が能力を生かして働く場所をつくること」。住みやすく楽しめる環境づくりに取り組むことが楽しい。

人を思いやる気持ちが仕事の基本
リーダーとしてきた人と仲良く楽しく

仲野さん



痛

みを取り除いてくれた感動、その出会いが衝



鍼灸師

島の仕事
図鑑
大崎上島

(24)

患者は子どもから99歳のお年寄りまで県内唯一の治療法に島外からも訪れる

感動、その出会いが衝撃だった。高校野球部時代、過度な練習による故障。痛みを抱えながらのプレーを支えてくれたのが鍼治療。同じように痛みで苦しむ人を治したい想いで鍼灸医学を学んだ。治療法を極めるために積極的に研修に参加。そして2012年島で開院し、さらに広島市内にも開院。痛みを伴い不安な顔で来院する患者さんが笑顔になつて帰る瞬間がこの仕事のやりがいだと語る中石院長。これからは地域医療に人生を捧げる。

中石さん

患者は子どもから99歳のお年寄りまで県内唯一の治療法に島外からも訪れる

自 紿自足の生活を目指し、2013年に海

沿いの一軒家を購入して移住。昔は大のバイク好きで大学時代に毎週末、県外までツーリング。

こんな暮らしをするなんて夢にも思わなかつたと笑う山木さん。きっかけは子どもが生まれたこと。前職は機械設計。今は草刈りから掃除までなんでもこなす町のなんでも屋さん。一つの仕事で稼ぐのではなく、月3万の仕事を複業することが理想と語る。今春生まれる3人目の子どもために、まずは生活の基盤作りに専念する。

小

さい頃から船が作りたかったという津田さん。

船の中でも主に貨物船の設計を担当している。画面や図面だけで物事を判断するのではなく、現場に立ち会って、様々な人に関わっていくことが魅力といふ。設計をする時には現場目線を重視して、実際に居住スペースをいかに過ごしやすくするかを考えることに最も仕事のやりがいを感じている。やりたいことをやりながら、島のきれいな空気や海を、家族と一緒に感じることができる。家族みんなで島暮らし満喫中。

造船

島の
仕事
図鑑
大崎上島

(26)

関西から家族で移住、島暮らし4年目
船の設計を年に4回もこなす

津田さん



I
ターン



I
ターン

年収200万生活を目指す町の何でも屋さん

山木さん

何でも屋

島の
仕事
図鑑
大崎上島

(25)

団体職員

島の仕事
図鑑
大崎上島

(27)

生

粹の島人である真崎さんは、島の高校に通い、卒業後も島で就職。都会への憧れよりも、生まれ育った島で暮らしたいと言う。仕事は協同組合の保険業務。先輩の姿を見ながら、営業や窓口業務を学んできた。大切なのは自分なりの工夫をどれだけできるかだと語るのは一筋縄ではないが、丁寧に向き合いながら一つひとつ問題を解決していくことがやりがいと笑顔で語る。その笑顔には親しみやすい人柄が溢れている。

真崎さん



帰

る場所があつたから帰ってきた。川上さん

は小4まで島で暮らし、その後は神奈川県で暮らしていた。社会人になり当たり前のようにな京で過ごしていたが、2013年に島の町役場へ転職した。どんなにITが発達しても島では直接町民と顔を合わせて話す。そんな当たり前のことが仕事のやりがいだと言う。昨年結婚し、今春ママになる。島の好きな場所は神峰山。「絶景ですよ」と屈託なく笑う。一度、島の外に出たからこそわかる島の良さをこれからも発信したいと語る。



川上さん



公務員

島の仕事
図鑑
大崎上島

(28)

幼少期を過ごした島へJターン
都会の目線を持つ公務員

海

魚が沢山見れる
海の好きなところ・楽しみ方
海の家のおでん
海が綺麗
釣り
スールより自由
船の引き波

島の魅力だと思ったのはいつから?

島の魅力だと思ったのはいつから?
どうな時に海に行く?
暑くて暇な時
どうな時に遊ぶ?
友達と遊ぶ時
船の引き波
海が綺麗
釣り
スールより自由
島の好きなところ・楽しみ方
海の家のおでん
魚が沢山見れる

高校生が島の

魅力をディスカッション。



船で行く広島県瀬戸内の島
穏やかな波が特長の瀬戸内海。
海藻や魚も海面からよく見える。

二百年以上続く伝統行事「櫂伝馬」
国土交通省「島の宝100景」に選定。



山田洋次監督「東京家族」の脚本を手掛けた
平松恵美子さんが語る島風景。



記憶の大崎上島

記憶とは不思議なもので、普段全く意識していないことが、思いもかけない時に思いもかけないことをきっかけとして、さまざまと五感によみがえってくるものである。

ここ数年私にとってのそれは、寒い冬の後、不意に訪れる暖かい日差しによってもたらされるもので、2012年5月「東京家族」という映画の撮影で訪れた大崎上島のものである。

瀬戸内の穏やかな潮風と日差しをたっぷり受けて育ったミカン、ネーブル、レモンなどの柑橘類の樹木が放つ爽やかな香りがまずよみがえり、続いて、ロケ地として使わせて頂いた数々の場所（眺めのよい場所に堂々とした姿で佇

む圓妙寺、眼下に造船工場や港を見下ろす映画の主人公周吉の家、そこからうねうねと下る細くて急な坂道、そして昔ながらの佇まいと味わいを保つ家並みのある通りなど）が連鎖的に次々とよみがえるのである。

しかし。

だが、最も強い記憶は、圓妙寺での撮影後、島の方々が大いに腕を振るつて私たちスタッフに食べさせてくださった炊き出しの味噌汁やご飯かもしぬれ。具だくさんな味噌汁は「大崎上島の味」そのものであつた。具材だけを言つてゐるのではない。その

味を作り出してくださった大崎上島に暮らす方々の心意気が生み出す味でもあつたのではないか。

私にとって、ぼんやりとし

た「思い出」ではなく、鮮烈な「記憶」として、大崎上島が残つているのは、そしておそらくは残り続けるのは、このような理由からかもしれない。

大崎上島には橋がかかって

山田組演出部・脚本

平松恵美子

で渡るしかないのだが、それをして不便という言葉ではなく、守り続けたい貴重な環境といふ言葉に置き換えた。どこかの地方都市に行つても同じよう量販店が並ぶ通りを目にすることが多いなか、大崎上島は紛れもなく、大崎上島で

で渡るしかないのだが、それをして不便という言葉ではなく、守り続けたい貴重な環境といふ言葉に置き換えた。どこかの地方都市に行つても同じよう量販店が並ぶ通りを目にすることが多いなか、大崎上島は紛れもなく、大崎上島で



取材
大崎海星高校生 有志8名



取材協力
大崎上島地域協力者

大崎上島町商工会
〒725-0301
広島県豊田郡大崎上島町中野 4098-4
TEL 0846-64-3505
FAX 0846-64-3552
kamijima-ohsaki@hint.or.jp

大崎上島観光ナビをチェック!
osakikamijima-kanko.jp